

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【茨城県】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	茨城県立水戸聾学校 児童、生徒 74名 教職員 50名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>1 教科名 ()</p> <p>② 行事名(オリンピック・パラリンピック教育推進事業 講演会)</p> <p>3 その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>1 イベント名 ()</p> <p>2 その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック種目の競技を体験することにより、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を深めると共にスポーツ機運を高め、生涯にわたってスポーツに親しむ心の育成を図る。 ・体験談を通して、目標をもつこと、努力すること、人を思いやる気持ちの大切さを学び、今後の学校生活に活かすことができる。
5 取組内容	<p>体操の日本代表選手であり徳洲会体操クラブの佐藤巧選手に講演、実演、実技指導をしていただいた。</p> <p>(1) 講演</p> <p>小学校から体操を始め、小学校で個人総合優勝、中学から高校、大学、社会人の大会全てで、跳馬の優勝を経験しているという紹介があり、児童生徒は食い入るように体験談を聞いた。</p> <p>「生まれつき手首の骨に異常があり、痛みに耐え、大きな手術を繰り返しながら体操を続けていられるのは、家族をはじめ周りで支えてくれる人たちがいるからであること」「まずは小さなことで良いから目標をたてること、目標を達成した時の充実感を実感し、その喜びが、常に目標をもち続け努力を継続することにつながり、やがて大きな結果に結びつくこと」等、分かりやすく話をしていただいた。</p>



(2) 競技映像と実技を視聴

講演の後、全日本の大会競技の動画を視聴し、児童生徒は歓声をあげながら目を輝かせ見ていた。

その後、素晴らしい実演を目の前で見ることにより、体操の魅力に引き込まれていた。

(3) 実技指導

実技指導では、佐藤選手に挑戦する時間をつくった。日頃前に出たがらない児童生徒や運動に苦手意識を持った児童生徒が自ら進んで挑戦する様子が見られる等、短時間で運動に対する意欲の向上がみられた。

手話を使って自己紹介をしてくださったり、できない生徒の補助を率先して行ってくださったりする、佐藤選手に親近感が湧き、憧れや応援する気持ちが強まった。



6 主な成果

- 体操競技に興味をもち、中学部生徒が跳馬の模型を作成したり、佐藤選手の掲示物を作成した。また、オリンピックマスコットの小学部の投票の様子と交え、オリンピック、パラリンピックの興味関心を高めることができた。
- 体幹、柔軟性、握力、背筋等の基礎体力が大切という話から、トレーニングの必要性を実感し、自己分析しながら取り組んでいる。



	<ul style="list-style-type: none"> 児童の中には、野球選手になりたいので毎日素振りをする、サッカー選手になりたいので休みの日に走るという目標をたて取りくんでいる児童もいて、生活の中で運動に対する意識が変わった様子が窺える。 
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚からの情報が入りづらい本校の児童生徒へ、視覚情報を多用したり、手話通訳などの情報保障を行ったりした。 日本を代表する選手の話や姿を身近で感じ、実際に見ることで興味関心を高めることとした。 日本代表選手は世界が違うという先入観があったが、茨城県出身、本校教員と幼なじみということや積極的に関わりを持ってくれたことで身近に感じられ、児童生徒達のスポーツ実践に対する取り組みが変容した。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 講師との連絡調整が難しく、校内に講師の知人がいた関係で、講演を実施することができた。講師の方には柔軟に対応して頂いたが、調整不足でご迷惑をおかけした部分があった。 本校にあるマットや跳び箱でも、次元の違う演技を見せていただいた。専門の機材を準備できる環境があれば、より高度な実演を見ることができた。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 実際に選手の演技を間近で見て、話を聞き、本物に触れることで、児童生徒の変容が如実に表れるということを改めて実感した。 今回の講演で高まったスポーツ機運を継続し、オリンピック・パラリンピックへつなげるためにも、日頃から体育の授業や部活動の充実に加え、スポーツに対する興味関心を深める取り組みをしていきたい。